

KAS

風の谷 びゅう VIE

社会福祉法人 風の谷
 相模原市中央区田名7236-3
 発行責任者 政野 光廣
 042-760-1033
<http://www.kanagawa-id.org/yamabiko/>
 e-mail: ykoubou@pastel.ocn.ne.jp



利用者の

健康を守る

には・・・

【2013年 新春号】

◇巻頭文	P 2	◇自閉症支援センター便り	P 3
◇健康な体を維持するために…	P 4・5	◇ヘルパー便り・ケアホーム便り	P 6
◇自閉症について	P 7	◇後援会	P 8

発行人 神奈川県自閉症児・者親の会連合会 代表者 内田照雄 〒243-0035 厚木市愛甲 2-11-6-109
 毎月15日発行 購読料1部 50円

年頭雑感

社会福祉法人 風の谷 理事長 政野光廣

新年あけましてましておめでとうございます。日頃より社会福祉法人「風の谷」に多大なご理解とご支援をいただいております関係者の皆様方に、心より新春のお慶びを申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、私たちはいま大きな転換点にいることを認識させられました。障害者施策に関わる制度改革や、社会福祉法人「風の谷」の事業運営や展開にとりまして大きな変化の中にあることです。国レベルでは、障害者権利条約の批准に向けての制度改革が進められており、改正障害者基本法、障害者虐待防止法、更には障害者総合支援法が成立しました。昨年末に自民党、公明党へと政権が変わりましたが、対象となる利用当事者の意見が反映される施策への充実が望まれるところです。

社会福祉法人「風の谷」に関しましては理事会、評議委員会を通じて、いくつかの重要な事が話合われております。その一つは障害者虐待防止法に関連しての話合いと、それに伴う職員へのメンタルケア、ヘルプラインなどの職員支援策の必要性の提案でした。やまびこ工房、ケアホーム ナウシカ、自閉症センターと事業特性から職員は常に緊張感の連続したなかで支援を行っています。職員の精神的負荷の軽減のために、法人の制度としてのメンタルサポートの必要性を再認識したところです。

また、法人としての新たな事業展開に向けての動きとしましては土地取得がありました。現在のやまびこ工房が利用者も50名を超え、事業スペースとして手狭な状態になってきました。一人ひとりに添った支援をするためにも新たな拠点作りを視野に入れなければなりません。この新たな拠点作りにはまだまだ高いハードルがあります。国、県、市と行政の支援のあり方も変わってきている中、なんとしても設立に向けての行政支援をお願いしていきたくと思います。

最後に、関係各位の皆さまのご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げますとともに、一層のご支援とご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。



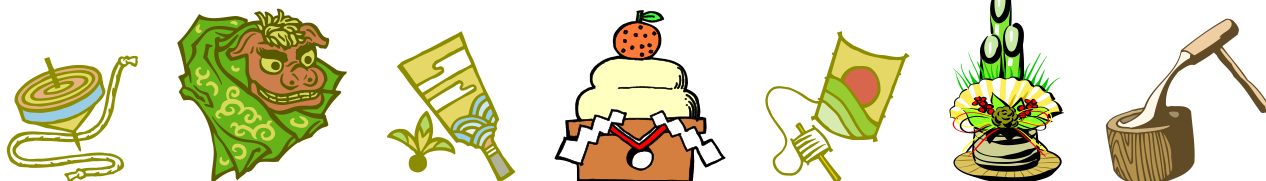
今年もやります！
地域交流バザー
2013年6月2日(日)
10:00~14:00
会場: やまびこ工房
皆様のご来場
心よりお待ちしております！！

「相模原自閉症支援センター便り」

新年明けましておめでとうございます。毎年毎年、このように新年のご挨拶をさせていただいていることに感謝します。さて、年末から新年にかけて、病院や介護施設での「ノロウイルス集団感染」という話題が続いていますが、中には重篤なケースになってしまうことも少なくない様子です。ウイルスの感染力もさることながら、変異するなどウイルスの対応力の凄さに驚いています。そんな中で施設職員の対応や健康管理が問題として挙げられていて、やまびこ工房でも健康管理に関しての話題が多くなっています。幸いなことに、今までインフルエンザウイルスやノロウイルスでの集団感染を引き起こしたことはありませんが、閉鎖的な空間になってしまうことが多く、感染、拡大予防の難しさを職員一同感じています。自閉症の人たちの中には触覚的な過敏さを抱えている人も多く、マスク等での利用者さんの予防には限界もあります。まずは、職員が感染しない、持ち込まないが大原則ですが、施設内の換気や消毒等、感染拡大を防ぐために出来ることから行うことになっているのが現状です。

そんな中で“ウイルスを体に持ち込まない”ために一番避けたほうが良いことは、実は外出しないことだったりします。それは単純に人ごみに行かなければ、細菌やウイルスに接する機会が物理的に減るからです。しかし、それでは地域での充実した生活を目指すことが出来ません。特に、相模原自閉症支援センターで行っている移動介護や行動援護は、ガイドヘルパーさんとの外出が主な活動になります。一人一人に希望を聞きながら、実社会に出かけて行き、地域を知り、周りからは個々の障害を知ってもらうことで充実した生活につながると考えているからです。ですからもちろん、公共交通機関や人の集まる場所を利用することも有ります。そんな時でも、「障害→予防困難→感染→外出しない」という流れではなく、“外出するために出来ることは”という発想を大切にしました。月並みですが、うがい手洗いの励行やヘルパーのマスク着用、出来るだけ人の少ない場所で楽しめる活動を探し計画する、インフルエンザ予防接種の施設内実施等行ってきました。合わせて、活動を計画する上で、感染予防も兼ねた体力づくりも考慮することがあります。発症しない健康な体をつくるという視点で、ウォーキングやスイミング等の体を動かす活動も取り入れています。そのほかの健康管理として、歯科通院の付き添いや歯磨き指導の伝達等をヘルパーさんをお願いすることも有ります。しかし、それらよりも一番大切だと感じていることは、変化に気がつくということです。

私の中で大きく影響している出来事があります。当時担当していた利用者さんが虫垂炎からの腹膜炎を起こし、緊急手術、入院をした出来事です。2006年2月のことですから、もう7年前のことになります。単純に考えたら健康管理のことだけなのですが、彼は体調不良の訴えを発症する数年前から発信し続けていたのです。多分…。今思えば沢山の行動がそのことを教えてくれています。いわゆる、“こだわり”と言われる行動です。自閉症の支援に携わっているが、私はそのことに気が付いてあげることが出来ず、うがい手洗いに体力づくりのウォーキングと健康管理？に支援を行っていました。恥ずかしながら当時は、退院後も思いに気がつくという感覚よりも、健康管理をしてあげるために、さらに何をしてあげるべきかという発想になってしまったのですが、今では少しは自閉症者の思いに気が付き、寄り添うという立ち位置にいられるようになったのではと思います。あの時彼はどの様に思っていたのか、映像にして見られる機械が開発されたらどんなに良いかと思いましたが、“何でわかってくれないの”という、うらみつらみが聞こえて来そうで怖くなります。健康面だけでなく、利用してくれている皆様の思いに気が付き、寄り添えるように支援者としての力を着けていきたいと思います。今年も相模原自閉症支援センターをどうぞよろしくお願いいたします。（西村）



～特集～

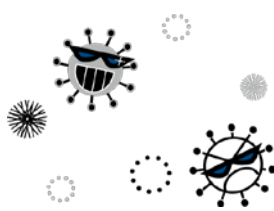
健康な体を維持するために…



皆さんは自分の健康を維持するために何か気をつけていることはありますか？
 「最近お腹が出てきたのでエスカレーターを使わず必ず階段を歩くようにしている」とか「お酒は月曜日と水曜日だけは控えるようにした」「ごはんは二膳以上食べない！」などなど、ご自分の体調、体質に合わせて様々な“健康法”があると思います。
 自閉症の方々の場合についてはどうでしょう？ 独特の身体的な感覚や好み、習慣を持つ方が多いので私達とはまた違った配慮も必要になってきます。今回は、やまびこ工房で行っている利用者の健康を維持するための取り組みを紹介したいと思います。

換気、室温、衣服、加湿

工場の朝は作業室の換気から始まります。利用者の中には窓や扉が閉まっていないと我慢できないという方もいらっしゃるの、利用者の出勤前に行っています。
 また体温の調整がうまく出来ないという方も多いので、日中は衣服の調整や室温に気を配っています。室温が高いと調子を崩されることもあるので、そういった場合は夏冬限らず室温を低めに設定するなどの対応をしています。衣服が濡れたり湿ったりした状態が苦手な方には、こまめな着替え。また冬場は加湿器を使用し乾燥への対策も行っています。



歯磨き

口腔内の清潔維持に欠かせない歯磨きについても各利用者さんに合わせて様々な対応をしています。自分で磨くことが出来る人は、絵カードや写真カードを使って手順を提示して、より磨き方がわかりやすくなるように工夫しています。
 口の中の感覚が過敏で歯ブラシを使うこと自体が苦手な方には、感覚の過敏さに合わせ負担の少ない介助が出来るよう心がけています。



1 みぎうえのそと

散歩

散歩には生活リズムや体調を整えたり、体を動かすことで発汗できる体づくりをすること、適度な疲労による睡眠の安定、単純に外に出て歩くことを楽しんだり色々な目的があります。目的に応じてコースや時間は様々ですが、中には自分でコースを毎回決める方や、途中で買い物をする方もいらっしゃいます。夏の暑い時期は麦わら帽子や保冷材などで熱中症対策を、車や信号に注意を向けるのが苦手な方はできるだけ車通りの多い道を避ける、などの対応もしています。



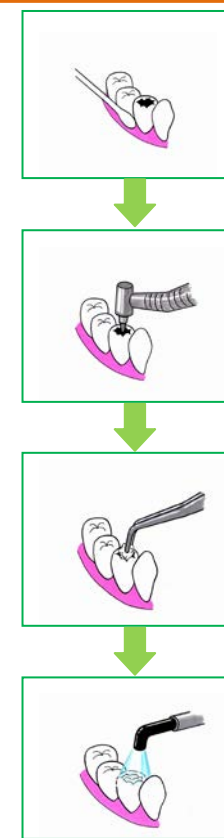
水分摂取

水分については促さないと摂らない方と、支援者が調整しないと摂りすぎてしまう方がいらっしゃいます。摂らない方については、スケジュールに「お茶を飲む」ことを組み込んだり昼食時に多めに取るよう促したりします。夏の汗をかく時期は、特に気をつけています。摂りすぎる方には、やはりスケジュールやカードを使って飲む回数を決め、水道のある場所へ行く時は見守るようにしています。



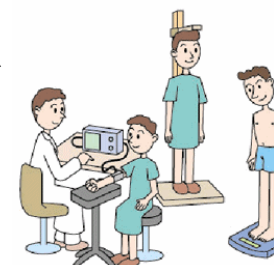
歯科通院について

皆さん苦手な歯科通院について紹介します。
 虫歯になって、治療が必要でも一般歯科医院では対応が難しい方がいらっしゃいます。ご本人の拒否の程度にも寄りますが、強い拒否がある場合は、全身麻酔で治療する場合があります。通院治療する場合でも、拘束帯や開口器を使ってやっと診察台に乗ることが出来る、という方もいます。
 勿論そんな器具を使わずに治療を受けられるようになってもらいたいです。歯科通院時に今日の治療のスケジュールを絵で提示し、『口を開けます』『消毒します』『うがいします』『引掻き器具で詰め物を取ります』…「今日は削りをするのか？」「型を取るのか？」「詰め物をするのか？」少しでも治療の見通しをつけて、本人の不安感を取り除けるようにします。その結果、落ち着いて治療を受けられた利用者もいます。
 歯科治療室に入れなかった利用者も、定期通院時の二回に一回は歯科に立ち寄り、歯科医にも協力してもらい少しずつ部屋に近寄る事から始め、今では自分から診察台に座れるようになりました。時間を掛けご本人の気持ちを尊重したことで、歯科治療に対しての恐怖心が和らいでいった様です。歯科の苦手な利用者の方たちもこうして、一歩ずつ苦手意識を克服されています。



定期健診の取り組み

やまびこ工房では、年に2回（6月と11月）医療法人相和会健診事業部に依頼して、職員、利用者全員を対象とした健康診断を実施しています。
 検査という私たちスタッフも緊張してしまいますから、利用者の皆さんは言うまでもありません。人によっては袖をまくることで注射のイメージになってしまう為か、血圧計のベルトが巻けなくて測定不能という場合もあります。そういった緊張を少しでも緩和するために前もって年間予定でお伝えしたり、日ごろから使用されているスケジュールに健診のカードを加えたりするなどの準備をしています。更にどういった順番でどういった内容の検査があるのかを絵や文字を使って事前に説明したり、利用者同士で相性の良い方が並んで受けられるように受診の順番を設定したりするなどの配慮も行っています。また、受診後に買い物に行ったり、外食に予定を組んだりすることで何とか受診できる方もいらっしゃいます。そして、事前に健診事業部の方に必要な配慮について詳しく説明する機会を持っています。
 昨年初めてやまびこ工房の新棟での実施を試みました。検査項目別に部屋を分けられたこと、1本の廊下が通路になり混雑せずに済んだこと、通常の日中活動に取り組まれている方への影響が少なく済んだことなど、大きな成果が得られました。中でもひとつの場所にひとつの検査項目という形にできたことは、利用者にとってより解りやすい環境設定になったと思います。場所の意味づけが得意でない自閉症の方に合った設定でした。様々な配慮の仕方がありますが、やはり立ち返るところは自閉症の方の感じ方をどれだけ想像しながら準備ができるかという点なのだと思います。
 健康維持のために定期健診は必要なことです。でもそれを利用者さんそれぞれが理解して、安心して受診できることが大切だと考えています。今年もより利用者さんに合った健康診断のあり方を検討していきたいと思っています。



ヘルパー便り 其の六

先日、Sさんの移動介護に付き添いをさせていただきました。やまびこ工房から徒歩でカラオケ店まで行き、帰りはバスを利用して自宅に帰るというスケジュールです。ものすごいスピードで歩かれ、途中興味のある物を満面の笑みで触れるなどしてノンストップでカラオケ店へ向かわれました。徒歩での移動中、Sさんの中で決まったルートや決まって触れる物があるようでした。



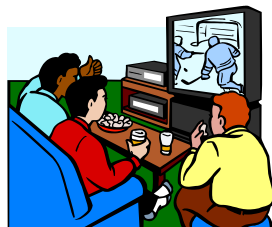
カラオケ店に到着し何よりも驚いたことがSさんのカラオケの楽しみ方です。画面に映っている映像から全く目を離さずに興味深そうにじっと観ていました。途中食事もされましたが、その際も画面から目を離される事はありませんでした。また、Sさんが体を左右に揺らしながら画面を見つめられる姿がとても印象に残りました。普段私たちは唄って楽しむ事が多いのですが、自閉症の方はカラオケの楽しみ方が人それぞれです。歌を唄うことを楽しまれる方、歌は唄わずに曲を聴くことを楽しまれる方、映像を楽しまれる方、歌本を楽しまれる方、食事を楽しまれる方など人それぞれの楽しみ方があります。

実際に付き添いをして見る事ができたものを生かしながら、今後より楽しんでいただけるようお一人お一人に合った活動をコーディネートしていきたいと思えます。(森谷)

ケアホームナウシカ便り 其の六

最年長のYさんはとてもテレビ好きな方です。

大相撲やサッカーなどのスポーツ番組やドラえもん等のアニメ番組、水戸黄門などの時代劇からNHK朝の連続テレビ小説まで、毎日様々な番組をチェックしておられます。音楽番組では歌手と一緒に歌を歌い、スポーツ番組を観戦する際はまるで実際に見に行っているかのように、熱のこもった応援をされています。



様々にあるテレビ番組の中でも最近のお気に入り、日本テレビの朝のニュース番組「ZIP!」のコーナーで俳優の速水もこみちさんが料理を作る「モコズ・キッチン」です。コーナーが始まると朝の身支度をストップし、居室から顔を出して笑顔で私たちに「モコズ・キッチン」が始まったことを教えてくれるほどです。

きっとYさんは明日も「モコズ・キッチン」とNHK朝の連続テレビ小説見て、元気良く工房へ出勤なさることでしょう。(田辺)

自閉症について

～どのように自閉症を説明するか？支援者に求められるもの～

自閉症者と関わっていながら、自閉症を説明するのは、実は苦手です。あることを伝えれば、何かが抜け落ちてしまいそうで、言葉をついでついで説明をしても、まだ足りなかったなあとか、誤解をさせてしまうような言い方だったかなあと考えこんでしまいます。でも自閉症と診断された方々と過ごしていて、自閉症を知っているように思われているので、やはり説明することを求められます。

先日、ある利用者さんがガイヘル中にコンビニのトイレ内で、大声を出したり、備品を投げて壊してしまうことがありました。その後、謝罪に伺ったのですが、店長さんはこのように言ってくくださったのです。「自分は勉強不足で自閉症のことがわからないのですが、(利用者さんが)大声を出しても、一緒にいる方(ヘルパー)は皆ニコニコしているので、怒ったりしてはいけないのだなと思った」と。普通なら怒っているのだけど、ヘルパーの関わり方を見て、注意しなかったということです。

自分はこの話を伺い、社会性に障害を持っていて、一般的なルールはなかなか理解できなくて、それでもアイスは買いたいですし・・・などなど、苦し紛れの弁解をしてきたのですが、自閉症の説明において、“どのヘルパーもニコニコと関わっていた”というのが、現象であって、自閉症者とその関わりを映しているのであって、自分の説明は一つの解釈でしかなかったと思います。言葉だけで説明するのはやはり難しいです。

昨年11月、小田急相模原駅の駅ビル内で、相模原自閉症児・者作品展が催されました。相模原やまびこ会の方々のご尽力により素晴らしい展示物が並び、多くの方の来場がありました。やまびこ工房としても参加の場を与えて頂きました。その中で、やまびこ工房ブースを設けて頂き、普段取り組んでいる編み物や刺繍などの作品をどのように作っているのかを紹介したり、受注の仕事についてもやまびこ工房利用者の取り組み方を写真やジグなどを使って紹介することが出来ました。やまびこ会皆さまの宣伝活動のおかげで、自閉症を知らない方々も来場され、紹介することが出来たのですが、やはり言葉だけよりも作品ややまびこ工房の取り組みを紹介する方が“そのままの自閉症”に触れることができたのではないかと思います。

遠方から来られた方がいました。

秩父から来られた男性は、たまたま作品展を見て、感銘してくださり、あくる日奥様を伴って来られました。その方は教師とのことで、秩父でも何か取り組んでみたいとおっしゃっていました。

このような方も来られました。

社会保険労務士の方が来られ、担当されている発達障害の方が障害年金を受給できず困っていると相談で、何かアドバイスをもらえるのではないかと思います。来てくださった方がいました。



我々支援者として、自閉症について説明出来るだけでなく、自閉症者の取り巻く環境と問題点についても知っておくこともまた求められるようです。

最後になりましたが、作品展にてやまびこ工房の自主製作品を多くの方々が購入してくださいました。その売り上げは利用者さんのお給料になるもので、今後の励みになります。本当にありがとうございました。(薬師丸)

後援会のページ

新年明けましておめでとうございます。風の谷後援会の皆様・やまびこ工房家族会の皆様・職員の皆様、2013年の新春はいかがだったでしょうか？

毎日寒さが続いております。北海道オホーツク海(歌登・北見枝幸方面)は-30℃以下になったと報じておりますが、皆さん想像つきますでしょうか。神奈川県の寒さも尋常ではないですネ！！

衆議院選挙では民主党から自民党(大勝ち過ぎて心配です)に政権交代し、これからの福祉政策がどういう方向に進んでいくのか？見守っていく必要があります。

さて、昨年の流行語大賞はスギちゃんの『ワイルドだろお』でした。今年の流行語大賞は、もう正月早々にして決まりでしょうか？NHK大河ドラマ「八重の桜」で会津藩の幼児教育を象徴する言葉で『ならぬことはならぬものです』と云う戒めのフレーズです。我が子ども達は『ならぬことはならぬものです』を地でいっていると思います。段々成長していく過程で、両親や支援者に根気良く指導を受け、コミュニケーションは取れなくてもお互いの目と目、お互いの仕草、そして何よりやまびこ工房職員(支援者)の皆様との信頼関係で、白黒のわからないことでも本人自ら判断していけるのだらうと思います。

皆様の今後のご活躍とご健勝を心よりお祈りいたします。

今後とも後援会へのご協力をよろしく願いいたします。

風の谷後援会 佐藤辰男



【新規・個人】 平成24年9月15日～平成24年12月26日(敬称略)

大久保禎(秦野市) 神谷昌裕(茅ヶ崎市)

【更新・個人】

(相模原市内)

内田まゆみ、小川幸枝、菊間政好、小林義明、斉藤真澄、津田英隆、古橋須美、高田晋、野崎廣子、宮田勇、柳井晶子、柳場秀雄

(市外)

内田照雄、藤野喜友(厚木市) 有路富夫(海老名市) 石渡和実、清水洋子、内藤美也子(横浜市)
上野悟、中屋敷剛(川崎市) 上城功(八王子市) 江澤恵(さいたま市) 岩崎秀二(小平市)
村井伸芽(福岡市) 宮手敏雄(盛岡市) 川野敏雄(苫小牧市) 上城和子(北九州市)

【ご寄付・ご協力】

(有)伸和トラスト、新宿自治会、新宿小学校、依知の会

風の谷後援会のご案内

風の谷後援会は、自閉症者の自立と社会参加を目指す『社会福祉法人 風の谷』を支援することを目的としております。主旨に御賛同頂き、皆様の温かい御支援を頂きますようお願い申し上げます。

一般会員 一口：3,000円/年間

団体会員 一口：10,000円

※一口以上、何口でも承ります。現金を添えてのお申し込みも承ります。

<お問い合わせ先>

〒252-0244 『風の谷後援会』事務局

相模原市中央区田名 7236-3 社会福祉法人「風の谷」内 TEL:042-760-1033 FAX:042-760-7115

郵便振込先 口座番号 00230-1-15345

他の金融機関からの振込先 ゆうちょ銀行 9900 店番 029 当座 0015345